

ウガンダ共和国の農村部における水・衛生環境の改善

事業分野 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業

■実施団体

特定非営利活動法人コンフロントワールド

所在地:東京都

WEBサイト:[特定非営利活動法人コンフロントワールド](https://www.confrofrontworld.org/)

■事業期間

2024年5月～2025年5月

■対象国・地域

ウガンダ・ブタンバラ県

■事業目標・内容

- ①貯水タンク建設
- ②家庭用トイレ建設
- ③石鹼等の生産・配布と衛生指導

■事業実施の背景

ブタンバラ県では水道が整備されておらず、40%の人が容易に安全な水にアクセスが出来ない。

また、当該地域では 50%の家庭がきちんとした設備のトイレを保有していない。野外排泄では感染症や、害虫被害、性被害等のおそれがある。

加えて、人々の衛生管理への意識不足と、医療体制の整備の遅れにより、感染症が拡大するリスクが高い。

団体のこれまでの取り組み

アフリカなどで水道やトイレが無い状況で生活する人々や、最低限の教育を受けられない人々を目の当たりにし、『不条理の無い世界の実現』を目指すため設立された。ウガンダで活動するにあたり、現地NGO(JEDOVIC)の活動実績や現地住民との信頼関係を知ったことから、2018年8月パートナーシップを締結。水・衛生環境を改善するための活動を始めた。

事業実施の工夫点・成果

・石鹼と簡易手洗い装置の配布

2024年12月時点で、液体石鹼1,883L(目標の70%)、簡易手洗い装置520個(目標の116%)の配布を完了している。

・衛生意識の向上に貢献！

衛生指導に参加した子供達が、他の子供や親に手洗いの方法や水衛生の大切さを伝えあうようになった。



ザンビア AIDS孤児のための初等教育及び給食支援

事業分野 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業

■実施団体

特定非営利活動法人 礎の石孤児院

所在地:東京都

WEBサイト:[礎の石孤児院](http://www.isodai.or.jp/)

■事業期間

2023年10月2日～2024年2月29日

■対象国・地域

ザンビア共和国ルサカ州(ンゴンベ貧困区)

■事業目標・内容

主にスラムにおける孤児を対象に、初等教育、及び、給食(朝食・昼食)の提供を支援する事によって、路上生活を選択することを抑止し、健やかな成長と将来的に貧困から脱却し自立した生活を営むことを目指す。

■事業実施の背景

数多くのストリートチルドレンを保護する一方、再び路上生活に戻っていく姿を目の当たりにし、子ども達の更生が、いかに困難であるかを痛感させられた。

そこで、路上生活を始める主要な 2 点「家に食べ物が無い」「学校に行かせてもらえていない」を支援するため、2019 年にスラムにおける初等学校運営を始めた。

団体のこれまでの取り組み

「礎の石孤児院」は1997年、カンボジアでの孤児院建設から始まった。ザンビアでは(カセンガ地区)に孤児院を建設し、2004年に孤児院をスタート。2010年2月より拠点を首都ルサカに移し、ルサカにおける第2孤児院の働きを始めた。ルサカでは2015年より、ストリートチルドレンに対する支援を行い、現在はHIV孤児の学校運営を行っている。世界中の子供たちに目を向け、一人でも多くの孤児たちを助ける事が出来るようにと、全世界に向けての孤児院建設をビジョンとしている。

事業実施の工夫点・成果

- ・87 人全員が最終試験をパスし、進級できる学力を持つに至ることができたのは快挙であった。特に識字力を改善するために絵本を活用し、毎月読み聞かせコンテストを学年毎に実施し、優勝者に景品(ささやかな)を贈呈するなどの取り組みを行ったことも、子どもたちにとって、よりモチベーションが高まったのではないかと考えている。
- ・家庭においては 1 日 1 度の食事もままならない子どもたちは、朝食と昼食の2食の給食を励みに通学している。





パキスタン 中古電動車いす提供による重度障害者の社会参加支援事業

事業分野 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業

■実施団体

特定非営利活動法人 さくら・車いすプロジェクト

所在地: 東京都

WEBサイト: [さくら車いすプロジェクト](#)

■事業期間

2024年1月22日～2025年1月21日

■対象国・地域

パキスタン国ラホール市

■事業目標・内容

- (1) 日本国内の集荷・輸送体制の強化
- (2) 他国への支援展開を見据え、対象地域におけるこれまでの知見・ノウハウの蓄積

■事業実施の背景

実施団体には、中古電動車いす提供を通じた障害者支援活動実績とその波及効果から、現在アジア各国から多くの支援要請が届いている状況。今後支援を希望するより多く重度障害者ニーズに応えるべく、日本国内での集荷・輸送体制のさらなる強化が求められていた。また、他国への支援展開を見据え、実施団体がパキスタンでの活動経験を通じて培われた紛争・災害下の地域で求められる「車いすの迅速な提供」に対応する知見・ノウハウをまとめる必要があった。



団体のこれまでの取り組み

2011年設立以降、パキスタン・ネパール・モンゴル・コスタリカ等への中古の手動・電動車いすの提供を行うとともに、姿勢保持・褥瘡予防のためのクッションや手動車いすの製作・メンテナンスの技術研修を実施してきた。現在、パキスタンでは毎月500台以上の手動車いすが製作されるまでに至り、政府による障害者給付システム普及にも貢献。日本の中古電動車いす提供と現地側の技術者育成による重度障害者の外出が促進された結果、バス・建物等インフラのバリアフリー化が進み、重度障害者の社会参加を飛躍的に後押ししている。

事業実施の工夫点・成果

- ・電動車いすの提供を受けた障害者の9割以上が持続的に活用していることを確認。障害者の移動の自由の向上に貢献
- ・現地住民の障害者に対する理解と支援意識の向上
- ・現地行政機関や医療機関、障害者団体との協力・連携強化
- ・他国へ展開可能な持続可能な運営体制の構築



バングラデシュ国ガジプールの学校(中等教育)における貧困層生徒職業訓練と、それを持続可能な運営にするための収益化事業ー2年次

事業分野 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業

■実施団体

NPO法人 YOU&MEファミリー

所在地:埼玉県

WEBサイト:

[YOU&ME International School Bangladesh](http://youandmeinternational.org/bangladesh)

■事業期間

2024年11月15日～2025年11月14日

■対象国・地域

バングラデシュ国 ガジプール県

■事業目標・内容

目的:団体と現地スタッフで運営する学校で実施している職業訓練クラス(パソコン・洋裁)を安定運営させ、同クラスを現地で自立して運営できるよう収益化し起動にさせる。

■事業実施の背景

バングラデシュの貧困層の子どもたちが、将来において社会的経済的に自立した生活を営むことができるよう、団体が2007年に設立した現地支援校にてパソコン・洋裁職業訓練を実施している。2023年度に収益化を目指した事業を開始。2年次となる本事業では、パソコンクラスの強化、洋裁クラスの製作品の品質担保、また現地スタッフ組織を強化させることに重点課題に置いている。

団体のこれまでの取り組み

「教育こそが、未来をつくる」の理念を掲げ、2007年にバングラデシュ ガジプール県の貧しい子どもたちのための学校「YOU&MEインターナショナルスクール」を設立。当地域で取り残されている貧困層の子どもたちに良質な教育を提供し、より豊かな人生の選択肢を与え、彼らが社会的経済的に自立した人生を送れることを目的とした取り組みを継続している。日本人スタッフは、休日と本業の休暇を利用して現地を訪問し、生徒会、クラブ活動、清掃活動、図書館運営、保護者会、地域病院連携、等の教育支援を行っている。

事業実施の工夫点・成果

児童向けのパソコン及び洋裁クラスは、毎回満員となっており、さらに洋裁収益化事業では、制服販売の販売数を伸ばしている。洋裁クラス修了後は近隣の縫製工場に就職する生徒もあり、本事業で習得した技術を用いて活躍している。また洋裁店を営みながら技術指導をする講師を目標に、自分も将来事業主とした自立を目指し努力している生徒も多い。





災害時にこどもたちを守る 避難計画策定と防災教育の推進

事業分野 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業

■実施団体

(団体名) 佐賀県協力隊を育てる会

(所在地) 佐賀県

(ウェブサイト・SNSアカウント等のリンク) なし

■事業期間 2024年1月～2024年12月

■対象国・地域 トンガ王国 トンガタプ島

■事業目標 災害により被災したトンガの学校において、避難計画の策定と防災教育を行うことで、こどもたちや家族の不安を減らし、こどもの命を守る手段を広める。

■事業内容 避難計画策定ワークショップと防災教育教材の見直し、それらを用いた避難訓練の実施。

■事業実施の背景 トンガは自然災害のリスクが高い国の一つ。学校・コミュニティでの対策が進んでおらず、学校等での防災教育が重要となっている。

団体のこれまでの取り組み

JICA海外協力隊への支援を中心に取り組む。2022年の火山噴火と津波発生後、副会長が青年海外協力隊(理数科教師)としてトンガで活動した縁から、他団体と協力し、支援金を募り、トンガハイスクールを支援した。

事業実施の工夫点・成果

- ・教員と生徒を交えたワークショップを実施し、防災に関するゲームや議論を通じて、防災意識を高めた。
- ・教育訓練省等の関係者を巻き込み、学校での、地震・津波を想定した避難訓練を実施した。
- ・緊急時の対応や避難ルートを掲載したリーフレットを作成し、校内で配布。電子データも共有し現地での修正が対応できるようにした。



こおりやまプレススクールモデル事業

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

団体名: こおりやま日本語教室

所在地: 福島県郡山市

<http://koriyama-nihongo.org/>

<https://www.facebook.com/koriyama.nihongo/>

■事業期間

2023年10月～2024年9月

■対象国・地域

福島県郡山市

■事業目標

地域の日本語教室と外国出身保護者が連携して、外国にルーツを持つ地域の子どもたちが安心して小学校の学校生活に適應できるように環境を整備する。

■事業内容

- ・市内の幼稚園や小学校現場の課題をヒアリング調査
- ・子どもの日本語指導者向けプレススクール開催に係る研修会の実施
- ・愛知県など外国人集住地域で活動する団体への先進地視察
- ・外国にルーツを持つ子どもと保護者のためのプレススクール開催
- ・保護者のための資料「もうすぐ小学1年生」の翻訳作成(8言語)
- ・作成資料のウェブサイトでの公開

■事業実施の背景

外国人散在地域である郡山市では、外国にルーツを持つ子どもたちにとって、日本の教育環境に適應するための行政の支援が少ないことが課題である。近年、日本語教室に通う子どもたちの両親はともに外国出身の家族が増加している。日本の学校文化を知らない家族が増えてきたことにより、小学校入学の準備に不安を抱える家族からの問い合わせが増加している。

団体のこれまでの取り組み

- ・日本語教室運営
(郡山市教育委員会の協力により会場確保と教材保管)
- ・高校進学ガイダンスの開催(通訳付き)
- ・福島県の高校進学ガイドブック(6か国語)をHPで公開
- ・多文化キッズキャンプ開催
(県内の子どもの日本語教室と連携して運営)

事業実施の工夫点・成果

- ・作成した翻訳資料をウェブサイトで公開し、いつでも誰でも活用できるようにした。
- ・地域に在住の保護者に翻訳作業を依頼し、活躍の場を提供することで、人材育成につながった。
- ・子どもの日本語教室のメンバー間でLINEグループを作成し、情報交換を行うことで連携を強化。他の日本語教室でもプレススクールが開催された。



<プレススクール開催の様子>



保護者のための資料



ネパール人生徒のための学習用語辞典の刊行と その活用を通じた外国人生徒の学習環境の整備促進

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

(団体名)とちぎに夜間中学をつくり育てる会
(所在地)宇都宮市宝木町 1 丁目 250-6

■事業期間 2023年9月～2024年8月

■対象国・地域 日本: 栃木県中心に全国

■事業目標 日本国内の外国人生徒、特にネパール人生徒の学習環境の整備促進

■事業内容

- ①学習用語辞典『中学教科単語帳』(日本語 ⇄ ネパール語)の作成
- ②同辞典の活用方法の検討及び普及活動
- ③外国人児童生徒全体が直面している問題を理解し共有していくための勉強会・交流会の開催

■事業実施の背景

栃木県内の外国人住民数は増加傾向にあり、特にアジア諸国からの流入が目立っている。その中でもネパールからの住民数、増加率は上昇の傾向にある。このような外国人児童生徒の学びの支援としての多言語教材、学びの場の必要性が確認され、有用な教材の発行と学びの環境整備促進のため、同事業活動に取り組むに至った。

団体のこれまでの取り組み

団体代表が2016年頃より夜間中学に関する調査研究を進め、2021年3月に団体を設立。同年10月から自主夜間中学の活動に関わり、2023年4月には宇都宮大学キャンパス内に、主に高校進学を目指す外国人生徒と高校入学後の外国人生徒への学習支援を目的とする多様な学びの教室を新設した。

事業実施の工夫点・成果

- ・作成された教材は全国すべての公立夜間中学44校に贈呈され、活用が広がっている。
- ・ネパール勉強会・交流会等を複数回開催し、ネパールの国・人々の紹介や外国人の学習のための情報共有の機会を設けた。このような取り組みは地元紙で報道されるほか、同会合がきっかけとなり2024年10月から栃木市国際交流協会による会場無償提供での自主夜間中学の開校につながった。



散在する在留外国人と地域をつなぐ日本語支援事業

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

(団体名)一般社団法人にほんごさぽーと北海道

(所在地)北海道音更町

(ウェブサイト・SNSアカウント等のリンク)

<https://www.nihongosupport-hk.or.jp/>

<https://www.facebook.com/nihongo.support.hokkaido/>

■事業期間

2023年10月～2024年10月

■対象国・地域

北海道十勝地域

■事業目標

日本語学習支援を通じ、散在し孤立する在留外国人の居場所づくり及び地域日本人住民と顔の見える関係作りを行う。

■事業内容

・日本語支援教室の実施(生活情報コース及び日本語学習コース(JLPT対策))

・地域交流イベントの開催

■事業実施の背景

活動地域においては約3,000人の在留外国人がおり、その多くが地域内に散在して生活している。彼らは日本語能力に不安を持ち、生活に不便を感じたり、コミュニケーションが取りづらいことで孤立感を感じたりという課題を抱えている。

団体のこれまでの取り組み

在留外国人が日本で安心安全に暮らせるよう、やさしい日本語の普及活動を中心に下記活動を実施している。

- ・日本語学習やコミュニケーションのサポート
- ・日常生活のための情報提供やアドバイス
- ・日本語学習支援の実施、教材開発や提供
- ・学習支援ボランティア養成研修の企画・実施
- ・外国人と日本人の交流イベントの企画・実施

事業実施の工夫点・成果

- ・参加者からの意見を取り入れた活動を実施することで、参加者に当事者意識をもって活動に参加してもらえた。
- ・LINEグループを活用してオンライン日本語教室参加者のフォローを実施。多国籍交流にもつながった。



自主夜間中学がつなぐ！「日本語学習支援の輪」育み事業 ～道東における外国人材受入支援強化のための日本語学習支援ボランティア養成・スキルアップ事業～



事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

(団体名) 釧路自主夜間中学「くるかい」

(所在地) 北海道釧路市

(ウェブサイト・SNSアカウント等のリンク)

ブログ <https://kurukai08.exblog.jp/>

FB <https://www.facebook.com/kurukai946>

■事業期間

2023年8月～2024年3月

■対象国・地域

日本国内・北海道東部(主に釧路・根室地域)

■事業目標

日本語学習支援の基盤を強化し、道東地域における多文化共生社会の基盤作りに寄与する。

■事業内容

- ・継続的な日本語学習支援活動の実施
- ・日本語学習支援者を対象とした入門講座およびスキルアップ講座の開催

・コミュニケーション支援体制の整備

■事業実施の背景

活動地域内に在住外国人が増加している一方、住民とのコミュニケーションの機会がないことから、外国人が孤立しやすい状況が生まれている。また、日本語学習の機会も限られており、外国人に対する日本語学習支援の環境及び体制をより強化する必要がある。

団体のこれまでの取り組み

2009年に設立後、何らかの事情で学習機会を失った方々、基礎教育の定着に課題がある方々、在住外国人を対象として基礎教育や日本語習得の支援を行っている。

事業実施の工夫点・成果

- ・日本語学習支援活動を定期的かつ継続的に行うことにより、学習の習慣づけや学習者との関係性構築につながった。
- ・活動時に見学を受け入れることにより、見学者は活動内容や支援者の雰囲気を理解することができ、活動参加者の拡充につながった。



上越市における国内外から移住した文化的言語的に多様な児童生徒および地元出身の児童生徒が共に学ぶ環境強化プロジェクト

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

公益社団法人 上越国際交流協会

所在地:新潟県上越市

WEBサイト:[公益社団法人上越国際交流協会](http://www.jcoo.or.jp/)

■事業期間

2024 年 1 月～2024 年 12 月

■対象国・地域:日本(新潟県上越市)

■事業目標

外国ルーツの子ども達への日本語指導支援者がすぐに使える学習活動案を作成し、広く紹介することで、学校教育における学びの質の保障と他の児童生徒との関係を築きながら共に学ぶ環境強化を目指す。

■事業内容

1. 学習活動案のリソース集を作成
2. 研修等による基礎知識の形成
3. 運営委員会の設置

■事業実施の背景

上越市では近年、工業団地を擁する一部地域において、外国からの移住労働者が急激に増加し、散在地域と集住地域の二極化が進んでいる。近隣の学校区では、家族帯同により編入学する CLD 児 (Culturally Linguistically Diverse Children: 文化的言語的に多様な子ども) が増加しており、そのような児童生徒がスムーズに授業に参加できるよう支援し、地元出身の児童生徒と共に学ぶことができる環境を整備することが求められている。

団体のこれまでの取り組み

(1) グローバルな意識の醸成分野

青少年対象国際化事業(ワールドキャンプ)、通訳を学ぶ講座、国際理解講座、ホストファミリー講座(ホームステイ受け入れ)、JOIN 料理交流会、語学講座、英語しゃべり場

(2) 市民活動の活性化

お花見、上越まつり等交流事業

(3) 多文化共生社会の創成

外国人相談、生活日本語教室、やさしい日本語講座、医療通訳コーディネーター業務、外国人労働者と地域住民との交流事業、JOMnavi(じょんなび)、外国人医療支援事業、学校派遣日本語支援

事業実施の工夫点・成果

- ・多文化共生セミナーや教材を作成する活動を通じて、CLD 児に関わる支援者の意識変容を促し、スキルアップにつなげることができた。
- ・作成した教材を共有するクラウド環境を整備するとともに児童生徒や指導支援の課題を話し合う「指導支援者研修会」を市教委を巻き込みながら立ち上げたことで、今後の活動の基盤が整った。



福岡国際子ども食堂&居場所

Fukuoka International Children Cafeteria & Space

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

(団体名) 一般社団法人福岡国際市民協会(FIRA)

Fukuoka International Residents Association

(所在地) 福岡県

(ウェブサイト) <https://fira2023.my.canva.site/home>

■事業期間 2023年11月～2024年10月

■対象国・地域 日本・福岡市

■事業目標

外国にルーツのある子どもと保護者を支援し、安心して日本で働き、生活できるようにする

■事業内容

福岡市在住のベトナムとネパールにルーツを持つ子どものための学習や母国語教育を支援する。また、その保護者が学び合い、交流できる場を提供する。

■事業実施の背景

中長期在留外国人の子どもと保護者への教育面等でのサポートが行き届いていない。

団体のこれまでの取り組み

FIRA(ファイラ)は、福岡で子育てをする外国にルーツのある保護者やその家族が中心となり設立した団体。「国籍・民族・文化などの違いを尊重し、互いから学びあいともに生活できる地域社会の創造」をミッションとし、子どもの学びの場提供や、教育ガイダンスを実施した。

事業実施の工夫点・成果

福岡市の子ども食堂をしたい人と場所を貸してくれる人のマッチングシステムを活用して場所を確保したり、休眠預金を活用して、基盤強化に努めたりするなど、事業終了後を見越して、地域の多様なアクター・支援者を巻き込んで事業を進めた。



来日直後の日本語がおぼつかない在日ネパール人児童に対する 効果的な学習支援体制構築プロジェクト(フェーズ1)

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

(団体名) 特定非営利活動法人 SEWA

(所在地) 福岡県

(ウェブサイト) <https://npo-sewa.com/>

■事業期間 2023年10月～2024年9月

■対象国・地域 日本・全国

■事業目標

来日直後で日本語ができない在日ネパール人児童
の小学校の授業における学習を支援すること

■事業内容

在日ネパール人児童向けの算数の副教材の作成・
活用、および支援員に対するサポート

※教材のダウンロードはこちらから→



■事業実施の背景

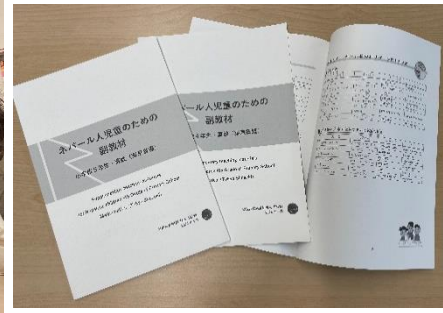
在日ネパール人の急増に伴い、特に家族滞在者の
子どものケアが課題となっている

団体のこれまでの取り組み

ネパールのJICA海外協力隊員が立ち上げた
NPO団体。当初、6年生用の算数の副教材や
異文化理解教材を作成。本事業では、小学校
3-5年生の算数の副教材(啓林館・東京書籍)
を作成し、その使い方セミナーも実施。

事業実施の工夫点・成果

単語帳形式ではなく、教科書の隣に置き、順
に読んでいけば分かるように工夫されている。
また、ネパール語、日本語、英語が併記され
ており、日本語を学ぶだけではなく、母語を学
ぶことや、指導する方が英語の表現を学ぶこ
ともにも活用可能である。



学校における児童の眼の健康を守る事業

事業分野 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業

■実施団体

(団体名) 特定非営利活動法人ヒマラヤの星たち
(所在地) 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥4-8-9
(ウェブサイト・SNSアカウント等のリンク)

URL: <http://npo-shiningstars.org>

Email: info@npo-shiningstars.org

■事業期間

2025年1月～2025年2月

■対象国・地域

ネパール国 ゴルカ郡およびダディン郡

■事業目標

子どもの眼の健康を守る、学校保健を普及させる

■事業内容

無医村の学校で眼の検診をして、失明につながる屈折異常をもつ児童に眼鏡等の矯正処置を実施し、学校保健活動が定着するように教員に向けて講義

■事業実施の背景

ネパールでは、3万人の子どもが失明し、20万人を超える弱視、100万人を超える屈折異常をもつ子どもがいると報告されている。農山村部には医療機会に恵まれない子どもたちが多数いる現実がある。

団体のこれまでの取り組み

2017年にネパールの開発の遅れている西部地方で始めた子どもの眼の健康を守る事業は、2013年に当法人の設立を機に引き継がれ、これまで2000人以上を検査して150人余りを治療した。また、学校保健に係る教員の役割に関する啓蒙活動をあわせて実施してきた。

事業実施の工夫点・成果

子どもの眼の障害に気付かない親がいる。経済的に遠い都市の病院に連れていけない親がいる。わたしたちは、無医村にアプローチすることで障害をもつ子どもに治療の機会を提供している。



在日ブラジル人コミュニティにおける継承語教育やアイデンティティを育む支援および移民劇を通じた多文化理解促進事業

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

(団体名) Projeto Sementinha

(所在地) 静岡県浜松市

[Facebookページ](#)

■事業期間 2024年12月～2025年11月

■対象国・地域 日本・静岡

■事業目標

・ブラジルにルーツを持つ子どもたちが親との円滑なコミュニケーションとアイデンティティの確立を通じて、日本社会で自信を持って活躍できるようになること。

・学生ボランティアや日本人観覧者が日系ブラジル人との交流や移民劇への参加を通じて相互理解を深めること、ひいては地域で互いが共生するためのリーダーとなる人材の育成に貢献すること。

■事業内容

・ブラジルにルーツを持つ子どもを対象としたポルトガル語教室および保護者向け日本語教室の開催

・日本とブラジルの移民の歴史を伝える移民劇の開催

■事業実施の背景

ポルトガル語が第一言語の親と、成長するにつれて学校など家庭外で日本語を多く使うようになる子どもたちの間で、コミュニケーションが難しくなる問題がある。また、日系ブラジル人の中には移民のルーツや歴史を知らない世代が増えており、歴史の継承と日本社会における理解促進の必要性が高まっている。

団体のこれまでの取り組み

「自分のルーツを誇りに想いながら、子どもたちが日本社会で生き生きと暮らしてほしい」という思いから、2018年に団体を設立し、継承語としてのポルトガル語教育や移民劇を行う。令和5年度「はままつ多文化共生活動表彰」を受賞。Sementinha(セメンチーニャ)はポルトガル語で「小さい種」という意味。

事業実施の工夫点・成果

- ・子ども向けに、日本の昔話を題材にポルトガル語教室を実施。ブラジル風にアレンジ(例: 桃太郎→マンガロー太郎)するなど楽しみながら学べる工夫を加えた。
- ・学生ボランティアの参加を促し、将来を担うリーダーとなる人材の育成に貢献した。



保護者と日本語や日本文化を学ぶ



移民劇の一コマ。
演者やその家族のエピソードが基になっている。

定住外国人向けキャリア形成と生活ガイドブック

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

団体名:一般社団法人SETTEN

所在地:愛知県岡崎市若松町字伝兵衛屋敷18番地岡崎
総合事務所2階

ウェブサイト:[一般社団法人SETTEN](http://www.setten.jp)

■事業期間 2025年2月～2025年10月

■対象国・地域 日本・愛知県

■事業目標

定住外国人の日本でのキャリア形成や人生設計、生活に関する情報格差を埋める。

一般に日本企業が正規雇用する際に必要とする社会人としての考え方や日本のビジネスマナー等に係る基礎知識を有する定住外国人を増やす。

■事業内容

キャリア形成ガイドブックをポルトガル語(4000部)、スペイン語(2000部)、日本語(500部)で作成し、永住ビザを持つ定住外国人へ無料の配布とガイドブックの活用方法の説明を行った。

■事業実施の背景

定住外国人の日本語力不足、日本社会の知識や文化の理解不足等により労働トラブルに繋がる等の不安が大きな障害となって、定住外国人の正規雇用へ踏み切れる企業が少ない問題がある。

団体のこれまでの取り組み

前身のNPO活動を経て、2020年4月に一般社団法人を設立。永住権ビザを持つ定住外国人と日本人、企業や行政、教育機関等との「接点」を生み出すイベントやセミナーを開催し、それぞれが抱える課題を共有する場を作るなど解決に向けた活動を行ってきた。

事業実施の工夫点・成果

テキストは、イラストを挿入し外国人でも内容がイメージしやすい構成にした。日本語テキストは、やさしい日本語を使用し、今後、多言語への翻訳が容易になるよう配慮した。
ガイドブックを配布した定住外国人から、「親子で日本社会の中でキャリア形成や賃金アップの仕組みを知るきっかけになった。」、「もっと早く知りたかった」という声を沢山いただいた。



[在日外国人のためのキャリアガイドブック](#)

多文化親子ひろば～つながろう！ひろげよう！ こどもの輪～

事業分野 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業

■実施団体

(団体名) 一般社団法人磐田国際交流協会

(所在地) 静岡県磐田市見付2989番地3

(ウェブサイト・SNSアカウント等のリンク)

[一般社団法人磐田国際交流協会\(いわたICE\)](#)

■事業期間 2024年11月～2025年3月

■対象国・地域 静岡県磐田市福田地区および周辺地域

■事業目標

同じ地域に暮らす就学前の外国につながる親子と日本人親子が様々な生活、文化体験を通して互いに交流する機会をつくり、磐田市内の外国人集住地域において多文化共生社会の構築を図る。

■事業内容

就学前の親子対象の体験型交流プログラム実施(全5回)

■事業実施の背景

磐田市福田地区に居住する外国人の数は年々増加しており、要日本語指導の子どもの割合が非常に高くなっている。外国につながる子どもたちは、ことばの壁や幼少期の生活体験、集団生活の経験が乏しいことで学校生活への適応や学習の積み上げに困難が生じ、学級や地域で孤立してしまうケースが見受けられる。このような状況をふまえ、福田地区および周辺地域にて外国につながる親子と日本人親子がつながる居場所づくりを実施する。

団体のこれまでの取り組み

2005年4月に磐田国際交流協会を設立。文化庁、磐田市受託事業として日本語教室を企画・運営、また磐田市教育委員会より「外国人児童生徒等学習支援事業(JSLサポート)」を受託し、市内の小中学校で外国につながる子どもたちの日本語、学習支援を行ってきた。さらに2016年からは一般社団法人磐田国際交流協会として地域の多文化共生社会の構築を目指しさまざまな交流事業も展開している。

事業実施の工夫点・成果

プログラムには外国につながる親子59名、日本人親子69名(累計)が参加。就学に役立つ講座の実施を通して、国籍やルーツを超えて地域の親子が共につながる場所を提供し、参加者双方が互いにもっと交流したいと考えていることが確認できた。各回の講師や支援者、ボランティアも市内在住者を起用し、同じ地域で暮らす外国につながる方々と交流が持てるよう工夫した。実施団体としても、本事業の実施により参加者、行政担当課や関係機関とつながったことで、就学前の親子や地域の人たちの多文化共生に対する意識や取り組みの現状が確認でき、地域の課題とニーズに寄り添った事業を展開するための重要なはじめの1歩を踏み出すことができた。

